

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503908		
法人名	株式会社じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム菜の花上野幌館 (1階)		
所在地	札幌市厚別区上野幌1条4丁目2-1		
自己評価作成日	平成23年2月5日	評価結果市町村受理日	平成23年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503908&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気を大切にし、安定した生活が維持できるよう心がけている。 ・地域との関わりを大事にし、町内会の夏祭りにはバザーを出店、交流を深めている。 ・春は小樽でお寿司で昼食、夏は地域のバラ園でバラの鑑賞会、秋は紅葉見物をしながらホテルでランチ、冬は大型バスをチャーターして大通り公園のイルミネーション見学など1階2階が連携をとり季節に合わせた行事など取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム理念とケア理念の中から、その日の目標を職員が選んで設定し、勤務の終わる時反省を毎日、介護日誌に記載しています。更に職員のケアに対する取り組みの確認と向上に役立て、チームで目標に向けて力を合わせ、職員の良い連携プレーが随所に見られます。町内会をはじめとし、地域との協力関係が良好で、サポーター養成講座の取り組みなど、新しい試み実践されています。外出は利用者本位に計画され、楽しい雰囲気で行き先が展開され、その様子は「お便り」を通じて家族に知らされています。ホームは運営法人の指導と協力を頂き、系列のグループホームと連携を図り、ケアの質の向上に努め、安定した運営をしています。管理者会議やリーダー会議、更に職員研修の充実など、日頃の利用者支援に反映されています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	菜の花新聞に理念を掲載。毎日の介護日誌に今日の理念を書き実践している。	ケア理念とホーム理念は運営法人で統一され、毎日課題として項目から選び、取り組みをしています。職員のネームプレート裏面に記載されて、日常的に実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りに出店コーナーに参加。散歩時には、ご近所のガーデニングを見せていただいたり積極的にご挨拶したりしている。	町内会の行事をはじめ、連合町内会の行事にも参加して、地域と日常的に交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方より見学希望、問い合わせに応じている。認知症サポート講座開催を計画中で町内会へ案内の回覧をお願いしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、地域との「情報交換の取り組み」の中で地域消防団の方々が、今後の推進会議に参加することになった。	2ヵ月毎の運営推進会議は地域の方々のみならず、多方面からの参加があり、活発な意見交換がされています。報告書は、家族にも送付されて、出席出来ない家族にも知らされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護サービスの内容などで、分からない事など相談し、積極的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	区の担当者と気軽に連絡がとれ、相談や指導を頂きながら、ケアの向上を目指した取り組みをしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で身体拘束防止についての研修を全職員が受講している。また、言葉遣いも気をつけ言葉による拘束も含め、マニュアル作成をし、絶対あってはならない事を周知徹底している。また、玄関は夜間のみ施錠している。	法人全体で共通課題として身体拘束防止のマニュアルを作成し、更に研修で学び、幅広い視点から利用者援助に拘束がない取り組みを実践しています。玄関の施錠についても、日中は開閉が把握できる呼鈴を取り付け、束縛感のない支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修（内部・外部）で学ぶ機会があり、ホーム内での虐待や身体的拘束は絶対にあってはならない事を全スタッフに周知徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中には成年後見制度を活用している方もいる。また、これからも研修を受ける機会を持ち活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、本社職員が対応し十分な説明を行い納得して頂ける様努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置し、自由に意見を伝えられるようにしている。また、面会時にご家族様より意見をいただいている。	ユニット入口の意見箱は利用が見られないが、家族の頻繁な来訪により、気軽に声かけや話し合いをして要望などを記録にして、それらを運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、カンファレンスを行い、スタッフの意見や提案を開き検討し前向きに努め、管理者会議、リーダー会議より代表者に伝えている。	職員は話しやすい間柄であり、連携も良好で、会議の中や日常の業務の気づきなど、前向きに取り組んで、ケアの質の向上を目指しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作り、チームワーク作りに努めている。職員個々の能力、個性に応じた勤務体制を作り、希望を受けている。個人面談をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で毎月一度、内部研修や外部研修に参加してステップアップに心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚別区グループホーム協会連絡会に参加し、研修を重ね、他館の管理者などネットワークができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、入居後など本人と話す時間を多く作るようにし、安心していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談により利用者との話し合いを繰り返し納得された上で入居していただいている。入居後も意見、希望等、聞き入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族が必要としている支援があるか把握しており、必要なサービスがあれば利用できるよう基本シートを活用し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様個々の生活リズムや出来る事、出来ない事を見極めてお互いに寄り添う事ができる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診状況変化の際、ご家族との連絡を密にし、ケアの向上に活かせるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が現役時代の部下が訪ねてきたり電話や手紙等で馴染みの人との関係を継続したりの支援している。	職員は利用者が、地域の老人会や来訪するボランティアの方々と馴染みの関係を作り、家族以外にも交流を深めて、楽しみを共有出来るように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考慮しながら円満に過ごせるよう配慮している。ジグソーパズルや風船ゲームなどには声掛けすると共に一緒に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した入居者様が不安がっているとの連絡がありホームで大切にされていたぬいぐるみをお持ちすると大変喜ばれ、不安も解消された。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングで職員同士が意見交換し利用者様及びご家族の意向の把握に努めている。	一人ひとりの性格や特徴を考慮し、寄り添うことで思いや意向の把握に努めて、職員間で共有し、利用者本位に支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	モニタリング等で職員同士が共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調チェックリスト、朝、夕の申し送りなどの中で変化があると職員同士で善後策を話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様からの希望、意見などを聞き毎月のカンファレンスでモニタリングを行いケアプランにつなげている。	利用者の担当職員から、詳細な課題や介護計画についての情報を重視し、より良く暮らすためのケアのあり方をユニットで話し合い、3ヵ月毎に見直して作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ一人ひとりが気が付いたことを連絡ノートに記入し、全てのスタッフが情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	喫茶店や地域のイルミネーション見学などご案内している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるエステや月に1度歌を歌いに来てくださる方など、地域の方々との交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族と相談し納得された医療機関を利用している。24時間対応が可能で利用者に変化が見られた時はいつでも相談、指示を受けられる事が出来る。	ホーム専属の往診医師を確保し、利用者や家族の希望を取り入れた適切な医療が、受診できるように支援しています。医師は24時間対応可能で安心に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、本社看護師による健康チェックを受け、利用者様の情報を伝え心身の状態の相談をしてアドバイスを受けている。連絡ノートや訪問看護シートに記載し職員で共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関に情報を提供、本人・ご家族の負担の軽減を図っている。病院関係者と連携をとり、本人・ご家族の希望に添って早期退院に向けて話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末医療に関する同意書をいただいている。重度化した場合、その後の方針について利用者様やご家族、医師と話し合い全員で方針を共有する。	入居時に同意書を確認し、状況に応じた対応については、個別に話し合いをして、利用者本位に検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、いつでも職員が閲覧出来る様にスタッフルームにおいてある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し定期的に利用者様、職員、地域の町内会の方々、消防団のご協力を得て避難訓練を行なっている。地域の方への連絡網も作成している。	地域の方々の協力、また、消防署の指導など充実した避難訓練の実施、更にスプリンクラーの設置など、災害対策は怠らないように取り組んでいます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇を通して利用者様のプライバシー及びプライドに配慮した言葉掛けに細心の注意を払い対応をしている。	センター方式で個別性を重んじ、利用者一人ひとりに細かな配慮をしながら、人生の先輩として言葉かけや対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事で市内中心部へ出かけた際、入居者様が勤務されていた場所を見たいといわれ、バスを迂回して見学、感激された。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを把握し、その人らしく過ごせる日々の暮らしが出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の訪問美容では、パーマをかけたりアクセサリーで飾ったりしておしゃれが出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら料理の下準備、盛り付け、後片づけをスタッフと一緒にやっている。	利用者の出来ること、やりたいことの気持ちを尊重し、共に準備をして、共に食べ、職員も家族のように食卓を囲み、楽しみの時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取は毎食後チェックし、記録に残している。栄養士により作成される献立はカロリー計算も行われている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。できない方には歯間ブラシで行い定期的に訪問歯科の検診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により排便の状況を把握している。定期的に歩行運動や腹部のマッサージなどを行い、排便の声掛け、誘導を行っている。	一人ひとりの排泄状況を把握して、プライバシーに配慮をした介助をしています。さりげない言葉かけなど、自立に向けて取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で排便のサイクルを把握している。日々の生活の中で個々にあわせて水分量、体操、廊下歩行を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前には、バイタルチェックを行い体調を把握し、利用者の希望に添って入浴時間を柔軟にして対応している。	週2回を目途に入浴を実施し、体の清潔のみならず、気持ちを大切にしたい支援をしています。利用者の希望に添うように、職員は努力をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの状態を把握し就寝時間も個々の希望に合わせて安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について変化があった時は、申し送りや介護日誌、受診記録で伝え全てのスタッフが把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝のアクティビティ等でキーボードを弾いていただき皆さんで歌いながら手遊びで体操を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の喫茶店に出かけ、ティータイムを過ごしたり、住宅地のイルミネーションを見学に行ったりホテルでランチを楽しむなど地域の協力を得ながら支援している。	暖かい日は散歩に出かけています。ホームとして屋外行事を企画して、遠足、花見、外食、見学、夏祭り、雪まつりなど実施しています。個別にカラオケなどの外出支援もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様は基本的にお金を持っていないが、買い物に行った際は利用者様にお金を渡し、支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族やご友人への電話をかける支援や取次ぎも行っている。また、手紙の取次ぎも行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	分かりやすいようにトイレや浴室などのプレートをかけている。温度、湿度、光や音は必要に応じて調整している。リビングには胡蝶蘭など季節の花や手作りのお雛様など四季折々品を飾り、廊下にはご家族が撮影された写真を展示して季節感を取り入れている。	ホーム全体が広々として、ゆったりした廊下中で見通しが良く、共有スペースは、居心地良い造りになっています。外からのボランティアの受け入れや行事の会場としても、職員、家族と全員で、楽しむ事が出来ます。更に季節の装飾など、家庭的な雰囲気作りにも配慮が見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が居心地良く過ごせるよう席を考慮している。また、ゆったり過ごせるようソファを用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具を持ってこれれば安全面に配慮しながら利用者様が心地良く暮せるように努めている。また、仏壇を持ってこれられる方もいる。	ベッドをはじめタンスやテレビなど、使い慣れた家具を居室に配置し、仏壇に手を合わしたり、編物をしたり、各自が安心の居場所になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーはもとより廊下の手すり、トイレ、浴室、洗面所などに大きく表示し、特にトイレは人感センサーにより照明され、安全を保たれている。		